

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1290900131		
法人名	メディカル・ケア・サービス株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム東船橋		
所在地	千葉県 船橋市 東船橋 1丁目21-12番地		
自己評価作成日	5月17日	評価結果市町村受理日	平成22年6月18日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo.chibakenshakyō.com/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人ヒューマン・ネットワーク		
所在地	千葉県 船橋市丸山2-10-15		
訪問調査日	平成22年5月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

全てのご利用者が、その人らしい生活を過ごせるように援助を行っています。それぞれのペースを大事にし、ご利用者主体の生活を過ごせるようにスタッフが意識を持っています。御家族の来訪も多い為、密な意見交換もっており、開かれた施設であると認識しています。認知度のばらつきはありますがかえって、ご利用者それぞれの助け合いの関係が良好です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

新しく赴任したホーム長の下、ミーティング等の機会を通し、「1、その人らしい、快適で穏やかなシルバーライフをサポートする。2、心を込めた、親切なサービスに努め、その心を磨く。3、様々な機会を通じて、地域の人々とのふれ合いを大切にする」との法人の3つの理念を理解し共有することに努めている。ホーム長は、職員一人ひとりに「その人らしい」とは？と常に問いかけ、職員一人ひとりが又チームとして、入居者一人ひとりの思いを尊重し、生活のペースを入居者の流れに沿って支援し、入居者主体の自立した生活が継続できるサービスを提供することを心掛けている。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当するものに 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の人々との、ふれ合いを大切にする。の理念のもと、自治会への参加を行っている。近隣、神社の清掃等を行い、夏祭りに参加等を行っている。が、内部へのご招待や参加の頻度を増やしていきたい。	法人のこだわりとして3つの理念を掲げている。特に「その人らしい」を大切に、生活ベースを利用者本位の流れに沿って自立した生活ができるよう、支援することをミーティングや申し送り時に話し合い、実践に繋げるよう努めている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の喫茶店等の活用を行っている。地域住民との係わりは増やす必要がある。	自治会に加入し、良好な関係を築いている。自治会の依頼で、神社の清掃をし、地域の方との会話をしたり、近くの喫茶店を活用し交流を図っている。新ホーム長は、地域の方への認知症への理解を高める学習会などもし、更に地域とのかかわりを増やしたいとしている。	認知症者の介護の仕方や相談会を開催する等、認知症への理解を高めたり、日曜日、デイサービスを活用し、地域の方々へ来ていただく等、更に地域との交流を図っていくことを期待したい。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	外部向けに認知症への取組を、研修のような形で行っていきたいが現時点では出来ていない。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会、民生委員、包括支援の方々ご家族を交え、運営への取組を話し合っている。昨年、8月より実施出来ておらず、6月13日に実施。	自治会代表・民生委員・包括支援職員・家族代表等の参加を得て、運営への取り組み・活動内容・職員研修状況等を議題として、昨年は、2回開催した。	年間開催日程を事前に決め、参加者にお知らせする等、2ヶ月に一度定期的に開催する工夫をすること、外部評価への取り組み状況等を議題とし、サービス内容について具体的な意見を頂く等、運営推進会議をサービス向上に活かす工夫をすることを期待したい。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所、地域包括との連絡や相談を行っている。3月、実施指導を受け、改善への相談を行っている。	南部地域支援センターや高齢者福祉課に利用者の暮らしぶり等を報告すると共に、運営や防災対策などについて具体的な相談に乗っていただける関係は築けている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルの掲示を行っている。単に掲示だけでなく、内容の理解を読みあわせてスタッフ一同で共有している。	『身体不拘束宣言』を掲げている。具体的な拘束にあたる事柄などをいつも目にできるようにすると共に、「それは身体拘束ではありませんか？」と具体的な事例を取り上げて研修をしている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	5月に研修実施。防止に対する意義の理解を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	その人らしいシルバーライフをスタッフ一同で把握するべく、ケアプランにも反映している。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	御家族様へ向けて、細部に理解と安心をしていただくべく説明を行っている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	アンケートを年に一回行い、常に改善と向上を図っている。昨年度の御家族様アンケートにおいて、顧客満足度1位の実績を残している。(全国110ホ-ム中)	面会時にご家族に現状を説明すると共に、「気にかかることは何でもお聞かせ下さい」と問いかけるようにしている。「毎日どんな食事をしているのか知りたい」との意見を頂き、毎月のメニュー表をお送りする等運営に反映させるようにしている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンス、ミーティングにおいてだけでなく、個々へ意見を求め運営を行っている。管理者が3月より交代したが、業務や介護方針を効率よく改善するべくスタッフ全員の意識を各自より確認した。	新ホーム長は、職員一人ひとりと面談し、運営に関する意見や日ごろの思いを聞き取りした。休憩が取れない、老朽化した電気製品、往診ファイル作成等多くの意見が出された。業務分担表を作成したり、テレビ・エアコンを交換する等運営に反映させている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	経験の少ないスタッフも多いが、それぞれに合った役割をもって業務に当たっている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に一度、ミーティングの際に研修を実施してスキルアップを図っている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	船橋市、グループホーム連絡会に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人からの要望が困難なケースが多いが、ご家族よりの情報収集をもとに努めている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	一度に全部を把握することは困難と考えており、その都度要望をお聞きしている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族よりの要望をお聞きすると共に、グループホーム以外の施設の説明も行っている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に、共同生活を意識して頂ける様に、買物や清掃などを共に行うようにしている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族の面会も多い為、スタッフ個々との関係も良好である。ご利用者様のことだけでなく、さり気ない雑談の中より把握できる環境も多い。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御家族様だけでなく古くよりの友人がお尋ねになる事も多い。	お店のお客さんだった人が訪ねてきたり、長唄と一緒に習っていた人がボランティアに来てくれたり、昔良く行った海老川に花見に行ったりしている。近所の喫茶店のマスターと新しい馴染みを作る等馴染みの関係の支援に努めている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	座席位置など、関係性を重視し設置している。また口論等が起こりそうな状況を常に意識するように徹底している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去の方との連携を現在構築中である。 (4/18退去の方)		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者主体であることを常に確認し、個別ケアについてスタッフはできる限り支援に取り組んでいる。ご希望に添えるように「パーソナル・センターケア」を目指している。達成困難な要望がある場合、極力近いサービスの実施を目指している。	ケアプランの内容は本人や家族の思いが強く反映されたものという方針のもと、「日課計画表」のコピーをスタッフ各人が持って、毎日すべきことを記入し、くみ取った思いや意向をメモしている。また「ケアに関して話し合いたいこと」という表に利用者ごとに問題点を記入し、思いや意向をケアプランに反映させている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面会時などを利用し、既往生活歴等の把握に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別ケアの実施、身体レベルの考慮等、残存能力の把握に努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	スタッフが様々な角度からのアセスメントを行い、安心安全なプランの実施を行っている。ご家族との面会時に、話し合いを持ち様々な事柄もプランに反映している。	「サービス計画実施状況の総括及び評価」を用いて、ミーティングやカンファレンスで担当者間で話し合い、職員の意見がケアプランに反映されるようにしている。家族・医師の意見等も交えて3カ月ごとにサービス計画の見直しを実施している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録の見直しの徹底を図り、情報共有を図っている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	新たな課題を、日常生活よりの拾いこみを行い、把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在、船橋在住のボランティアの方と交渉中で6月より実施予定。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携のすこやか医院による往診を行っている。24時間の医療連携を実施。	提携医とは24時間オンコール体制で協力頂いている。月2回往診があり事前に入居者の状況を記録したものを提示し、提携医の指示や処置を記録した情報をスタッフが共有出来るようにしている。特殊な受診には家族が対応している場合と、ホーム長が通院介助の支援をしている例がある。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	連絡体系を強固にしており、また往診と訪問看護の連絡帳を使用している。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の状況把握に努め、医療との連携を努めている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	情報の把握や重度化の際の説明に努めている。入居前に、説明を行いご家族との連携強化に努めている。	契約時に「重度化した場合における医療体制指針」を用いて、本人・家族に出来ることと出来ないことを説明し、現段階では看取りは出来ないことも含めて理解していただいている。重度化した時は、その都度家族との話し合いや、連携強化に努めるようにしている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルの掲示と把握に努めている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルの掲示と把握に努めている。会社を挙げて、連携強化に努めているもの、地域との関係に課題がある。	火を出さないという決意のもと、ガス器具のホースの色や老化、折れのチェックなど15項目の「防火用自主点検票」を用い、毎日点検・記録し防火に努めている。備蓄用の食糧や水、介護用品は準備されている。災害時の対策マニュアルはあるが、地域との協力体制を今後の課題としている。	夜間を想定した近隣職員への連絡網を作ると共に、消防署立ち会いの避難訓練の際に地域住民の方に参加を呼びかけるなど、いざという時に地域の方に協力していただける体制を築いておかれることが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	優しい声掛けに努め、冷静かつ穏やかな接遇を心掛けている。記録等の記載に関しても、尊厳が保てるように意識している。	問題行動のある入居者に対しても、大声で怒鳴ったり制止するのではなく、傍らで優しく声掛けをする等、本人のその時の意思を慮った対応をしている。記録の記載についても、誰が見ても恥ずかしくないよう、入居者の尊厳とプライバシーの確保に努めている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来る限りの意思尊重を心掛けている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者主体の生活を意識した日常生活を心掛けている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の趣味、嗜好を把握できるように努め、それがいかせるべく援助を行っている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しいことであると共に、生活の一部であるべきとの認識を持って頂く様に、お手伝いもお願いしている。徐々に、咀嚼力の低下が見られるご利用者も現れており、今後の対応を協議している。	食事は手作りで、その日の気温や希望、季節感に合わせる事が出来るようにされている。献立記録を毎日見直し献立が重複したり栄養のバランスが偏ることが無いよう配慮されている。食材の買い物から、準備・配膳・盛り付け・後片付けなどを入居者も一緒に行い食事を楽しむようにしている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	糖尿病の方もおられ量的なバランスにも考慮している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	月に一度、訪問歯科の定期健診を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	極力のリハビリパンツ等の使用をせずすむように援助を行っている。タイミングを見計らった声掛け等に努めている。	排泄チェック表で一人ひとりの排泄パターンの把握や利用者の排泄前の行動・表情などの情報を職員が共有することによって、タイミング良く声かけ誘導を行うなど、排泄の自立支援に努めている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ヨーグルトを取り入れるなど工夫をしている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	清潔と希望のタイミングを見計らった入浴を行っている。あまり入浴を好むご利用者が少ないが、清潔維持に心掛けている。	お風呂を隔日から毎日沸かすことに変更し、入居者が入りたい時に入浴できるようにしている。拒否者には入浴表を見てもらい、長く入浴していないことを納得していただいた上で入浴して頂くなど工夫している。ゆっくり会話をしながら入浴を楽しんで頂くようにしている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中時の生活の対応を十分にし夜間の良眠に努めている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬への注意を徹底して行っている。マニュアルの掲示も行っている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事も出来る事への把握に努めお手伝いをして頂いている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	行事に留まらず、日々の買物や散歩等を行っている。ご家族にも、訪問時に外出への援助を実施して頂いて気分転換に努めている。	日常的な散歩やシルバーカーでのスーパーへの食材や日用品の買い物等、入居者の状況に応じて外出の機会を多くするよう支援している。花見や近所の馴染みの喫茶店に出かけたり、自治会行事の夏祭りや法人の運動会の参加など、イベントを利用した外出支援も積極的に取り入れている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事故防止のため実施していない。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠距離のご家族よりのお手紙を飾るなど記憶の維持を実施している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	安全に配慮し穏やかな空間を作るように心掛けている。スタッフ手作りの季節に合わせたポスターなどを掲示している。	安全性を配慮した見通しの良い空間となっている。空気の流れ、日差しも良く、利用者が個々に落ち着いてくつろげるように、それぞれの居場所作りの工夫がスタッフによってなされている。手作りのポスターや、練習中の大きく書かれた歌詞が壁に貼られ生活を楽しめるよう考慮されている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	狭いスペースではあるものの、ご利用者各自がおのおののお気に入りの場所で過ごされている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	趣味や嗜好の把握に努め、生活環境を構築している。ご家族からの要望や安全性の維持を両面で意識している。	畳敷きの居室を多く用意し、利用者の状況や希望に対応出来るよう多様性を持たせている。レイアウトは、安全で安心な生活ができる事を配慮したうえで、使い慣れた家具や馴染みの物や趣味の作品が配置されている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共有スペースに老朽化が見られるものの、極力安全に配慮をしている。		